

牛肉の次、穀物は大丈夫？

世界の穀物 逼迫感強まる

FOA 見直し生産悪化で在庫急減

国連食糧農業機関(FAO)は6日、2003/2004年の世界の食料見直しを発表し、穀物在庫が前年に比べて急減すると警告した。中国、インド、ロシア、ウクライナ、EUなど幅広い国々で昨年の穀物生産が悪化したことが原因だ。(4/8 日本農業新聞より)

世界の穀物需給で警告

生産量4年連続減 期末在庫率30年で最低

4年連続で世界の穀物生産が減少し、穀物需給に危険信号。米国のアースポリシー研究所のレスター・ブラウン所長は5日、食料の安全保障が危機に瀕していると発表した。～略～穀物価格は上昇を続けており需給ギャップの拡大が進めば、05年には、穀物価格が高騰した1970年代前半のような食料不足の事態を招く可能性が高いと警告を発表した。(5/10 日本農業新聞より)

食料自給率40%の日本にとっては注目すべき記事ではないでしょうか。BSEや鳥インフルエンザで海外からの牛肉や鳥肉の輸入がストップし外食チェーンのメニューから外れるなど最近、日本の食料が不安定です。こうした、世界的な穀物不足の中、経済成長中の中国の動きに注目しました。96年に大豆の輸入国に転換した中国は、15年の穀物の不作により米国から大量の大豆を輸入し、大豆の価格が高騰しています。また、今年の1月より、日本に対して米の関税輸入をストップしています。中国の穀物市場の現状と米の関税輸出ストップの背景については次のような報告が中国社員より報告がありました。

2003年に中国一部地域に発生した旱魃と冷害により、穀物の収穫は減少したことは事実である。政府の指示により一部農地が植林および牧草地に転換し農地が減少。また、数年間の豊作で穀物の在庫が増え、農民が収穫した穀物の価格は低迷し、生産の積極性を失い、元に穀物を生産していた農地は他の経済植物(果物、野菜、牧草など)を栽培するようになった。これらの原因で中国国内における穀物の価格は去年末から高騰しつつある。

去年までの中国穀物価格の低迷は合理的ではなく、現在の価格は高位ではなく、最も農民生産の収支に合うのではないかと農業経済者たちに認識されている。

しかし、この高騰な穀物価格は国内社会の不安定要因になる可能性が十分あり、特に国民の主食として米価格の変動は社会基盤に関わることとして、中国中央政府は敏感になっている。国内米市場を安定するために、今年1月から米の関税輸出は一時停止とされている。

中国事務所 周長海

2004年5月18日

中国における正式輸出業者は吉林省糧油公司及北京の糧油総会社の2社(米はこの2社のみしか輸出扱いできない)だが、今回5/21の16年第1回SBSには吉林省糧油公司是参加できず、日本への米の輸出は今後ますます心配されています。主食用として輸入されている、SBS米は主に外食用に使用されており、98年より米国に代わりシェアトップの中国が上記のような状態では牛肉の次に穀物が輸入できなくなる心配もあるのではないのでしょうか。